

論文内容要旨

論文題目 採血を受ける3-6歳の子どもの対処能力を予測するアセスメント・アルゴリズムの開発

(Development of an assessment algorithm in predicting the coping skills of 3- to 6-year-old children undergoing blood sampling)

教育・研究領域：生涯生活支援看護学
氏 名： 佐藤 志保

【内容要旨】

採血を受ける子どもの対処能力を予測するアセスメント・アルゴリズムの開発を目的に研究を行った。Minds 診療ガイドライン作成の手引きに基づき文献検討を行い、アルゴリズムに必要な項目を抽出し、項目の妥当性と評価区分の検討からアセスメント・アルゴリズムを作成した。さらに、信頼性、予測妥当性、感度を検討した。関連要因を扱った文献から、アルゴリズムに必要な項目を抽出した上で評価区分を検討し、対処能力を4段階に区分するアルゴリズムを作成した。アルゴリズムの評価は一致しており、予測妥当性においても有意な相関があった。採血を受ける子どもの対処能力を予測するアセスメント・アルゴリズムを開発することができた。

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 佐藤 志保

論文題名： 採血を受ける 3-6 歳の子どもの対処能力を予測するアセスメント・アルゴリズムの開発 (Development of an assessment algorithm in predicting the coping skills of 3-to 6-year-old children undergoing blood sampling)

審査委員：主審査委員 布施 淳子 (印)

副審査委員 藤田 愛 (印)

副審査委員 佐藤 幸子 (印)

審査終了日：平成 26 年 12 月 25 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

小児看護学において採血を受ける子どもの対処能力を予測して速やかに対応することが課題である。子どもの採血時にプレパレーションを行うことは有効であるとされているが、プレパレーションを受けても、不安や緊張が強く泣き続けて抵抗し、効果的な対処行動がとれない子どもが散見される。画一的なプレパレーションだけでなく、子どもに合わせたプレパレーションを行うことが重要である。しかし、その時の対処能力を測定するアセスメントツールはこれまで存在しなかった。

これらの課題を踏まえ、本論文は、採血を受ける 3-6 歳の子どもの対処能力を予測するアセスメント・アルゴリズムを開発した研究である。アセスメント・アルゴリズムの開発は Minds 診療ガイドライン作成の手引き (2007) を参考に、研究者を中心とする小児看護学の専門家 11 名によって吟味された。測定項目は子どもの年齢、保護者の予測する子供の対処行動、採血経験の有無であることを抽出した。採血経験がない子どもは対処能力が最も低い区分とし、採血経験がある子どもは保護者の予測と子どもの年齢から対処能力を 4 段階に区分するアセスメント・アルゴリズムを作成した。作成したアセスメント・アルゴリズムに対して 2 施設の小児科外来で採血を受ける 3-6 歳の子どもと保護者 44 組を対象に質問紙調査と行動観察を行った。アセスメント・アルゴリズムの評価は評価者間で誤差なく評価できた。評価した対処能力の程度と採血中の対処行動得点とに有意な差が認められ、アセスメント・アルゴリズムで対処能力が低いと評価された子どもほど落ち着かず協力的でない行動を示した。アセスメント・アルゴリズムについて実際の対処行動における予測妥当性が確認され、測定感度も高いことが確認された。よって、採血を受ける 3-6 歳の子どもの対処能力を予測するアセスメント・アルゴリズムは臨床での実用性の高い開発であった。

本論文の功績は看護学の実践に貢献できる知見である。よって、本論文は新知見が得られており、看護学博士論文として相応しく、審査基準を満たしていると判断した。